

2016年1月4日

2016年 新年あいさつ

## グループの総合力で安定的な成長を

NS ユナイテッド海運株式会社  
代表取締役社長 小島 徹

皆さん、明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えるにあたり、私から皆さんにごあいさつさせていただきます。

### 厳しい環境の継続

振り返ってみますと、昨年 2015 年は不安定な年であったと思います。

国際政治の世界では、中東の不安定に起因する ISIL (Islamic State in the Iraq and the Levant) と称する過激主義者によるテロが世界を震撼させました。彼ら自身による、または彼らの過激思想に触発されたグループによるテロ行為が世界各地で頻発し、多くの犠牲者が出ました。非常に痛ましいことです。

経済の面では、資源を大量輸入し高成長を続けていた中国が「新常态 (New Normal)」と自称する中成長路線にシフトを開始し、その影響で新興国経済が停滞しました。さらには、米国におけるシェールガス・シェール石油の供給が増え、原油をはじめとするコモディティ価格が下落を続けました。

われわれが属する海運業界も、タンカーなどの一部を除いて市況低迷が継続しました。とりわけ、当社が主戦場とするドライバルクの世界では、低迷どころではなく底割れと言われるほどの厳しい状態が続き、国内外で破たんし追い込まれたオペレーターが出たことは皆さんよくご存じのとおりです。

足もとの市況低迷長期化の原因は、中国をはじめとする資源輸入国の需要が盛り上がりを欠いたという面もありますが、過去 10 年の間に多くの船舶が市場に出て、しかも大型化したため、結果として供給過剰になったという構造的な問題があります。さらに最近では、原油安・バンカー安に加えスクラップ安のため、燃費の悪い古い船舶がなかなか市場から退場しないという要因も加わりました。

### 継続的な利益計上を

この供給過剰はいわば構造的な問題ですので、すぐには解決しないと考えています。幸いにして円ドル為替だけは 120 円レベルと円安が継続していますが、ドライバルクのマーケットは、少なくとも 2016 年前半あるいは年間を通じて、大変厳しい環境が続くであろうと、皆さんが立つ位置を確認していただきたくお願いします。そして、その上で当社は利益を上げ成長していけるのだというのを、マーケットに示さなければなりません。これが今年の最大の課題です。

2015 年度上期、当社は 30 億円強の経常黒字を計上でき、下期も何とか利益を出せるものと予測しています。これはひとえに皆さん方役職員の努力によるものと感謝していますが、より厳しい環境の 2016 年も引き続き利益を出し続けるよう、皆さんでがんばっていただきたいと改めてお願いいたします。

### 新たなビジネス・新しいマーケットの開拓を

当社は昨年度から、「Unite & Full Ahead II 新たな発展へのスタート」というキャッチフレー

ズのもとに、中期経営計画を推進しています。残念ながら足もとは、外部環境前提が大きく変わったため計画したレベルには到達していません。今の段階で、未達に関しての差異分析に多くのエネルギーを割くのは、必ずしも得策ではありません。むしろ皆さんと再確認したいのは、中期経営計画で示された方向性です。当社および当社グループがどういう方向に進み成長するのかということを中心据えていただき、日常業務においては、外部環境に柔軟に対応していただきたいと考えています。

この中期経営計画の方針のもと、昨年当社は内航事業を100%子会社化し、より効率的・戦略的な組織運営に向かって進み始めました。また、ケープサイズ50隻体制を目指して、新規建造発注・用船、商権付き船舶の購入を行うことができました。基礎固めは着実に進めています。また、計画には織り込めなかったVLGCの建造も決めることができました。

2016年も、会社の将来に資する案件を増やすとともに、より効率的な企業運営を行っていきたいと考えています。皆さんの一層の努力に期待しています。足もとは悪くとも、アイデアを出し将来のビジネスを獲得していく、これが2016年、今年の2番目の課題だと思ってください。環境規制の強化、需要業界における企業結合・アライアンスなど、いろいろな変化があります。皆で知恵を出して、創意工夫のもと、新たなビジネス、新しいマーケットを開拓していきましょう。

とは言え、斬新なアイデアを急に思いつくとか、天から降ってくるということは、あるにしても極めてまれなことです。日ごろから情報を集め知識を蓄え、自分なりに頭の中で試行錯誤することにより「創意工夫」というものが具体化していくものです。そうした意味において、常にアンテナを高くし、お客さまをはじめとするさまざまなソースから情報を集めることと、その情報を咀嚼し自分の中で組み立て直すのに必要な業務知識をしっかりと保有することが大事です。土台の弱い建物が不安定になるのと同じです。自らの職務・仕事を深掘りし、その上に新たなものを創り上げていくように努力してください。

## 無事故・無災害の達成

ここで皆さんにお願いしたいことは、安全・安定運航、無事故・無災害ということです。ここ数年、皆さんの努力により座礁などの大きなトラブルは減少してきていますが、航海中あるいは作業中の人身事故や疾病は増えているように思われます。特に若い船員の非定常作業における事故が増えており、大変残念に思っています。管理船の数が増え、配乗する船員の数も増えてきていますが、事故だけは増やさないように、事故ゼロ・災害ゼロに向かってより一層の努力を、そのための現場でのマニュアル重視、基本作業・安全確認を徹底していただきたくよろしくお願いたします。

昨年も申し上げましたが、オペレーターとして船を安全に安定的に動かすことがマーケットでの評価につながります。海・陸一体となって、また、フィリピン・ベトナムのマンニング会社・船舶管理会社と一体となって、今年こそ無事故・無災害を実現したいと考えています。

この件をもう少し敷衍<sup>ふえん</sup>して申し上げますと、お互いがお互いをよく理解し合うチームワークの中で人を育てるという企業風土を作りたいと考えています。これはすべての職場に共通したテーマです。率直に意見交換できる風通しのよい環境のもと、皆で研鑽しあえる明るい職場にそれぞれがなるように、特に管理職の方々は留意していただきたいと考えています。常に時代を先取りできるような良い人が育つこと、このことが長い目で見て会社が成長し続ける原資になるのだと確信していますので、よろしくお願いたします。

以上が私からのごあいさつです。最後になりますが、航海の安全と、皆さま並びにご家族にとりまして、また会社にとりまして、今年がより良い年になりますことを、心から祈念いたします。ご清聴ありがとうございました。